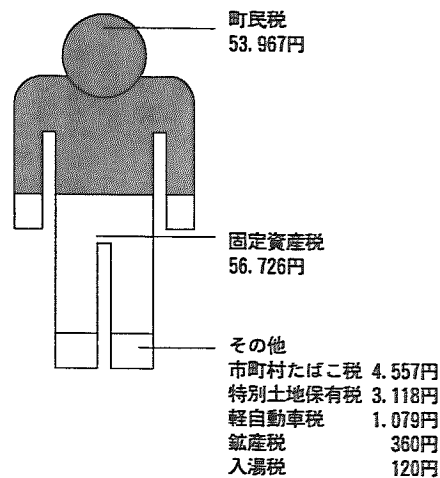


町の財政はどうなっているのか——平成6年度決算をふりかえる

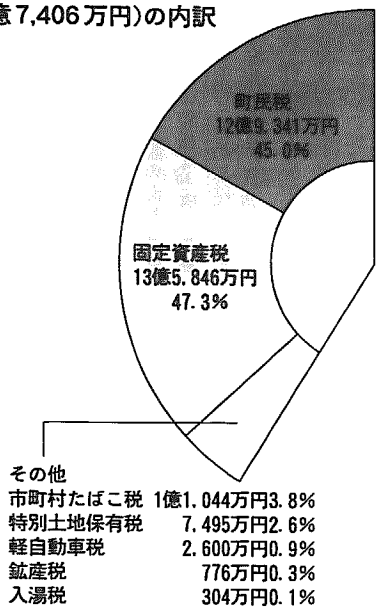
長引く景気の低迷に対応するため 求められる健全財政

黒埼町の財政はどのような状態にあるのでしょうか。平成6年度の決算を振り返り、町税の伸び、町債・公債費の状況、財政力を測る各種の指数などを見てみましょう。

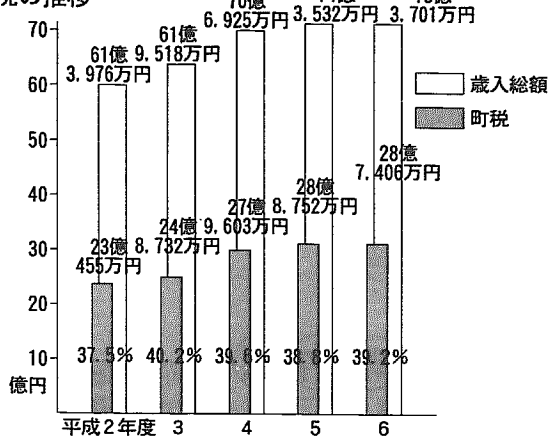
②1人当たり(11万9927円)の内訳



①町税(28億7,406万円)の内訳



③決算と町税の推移



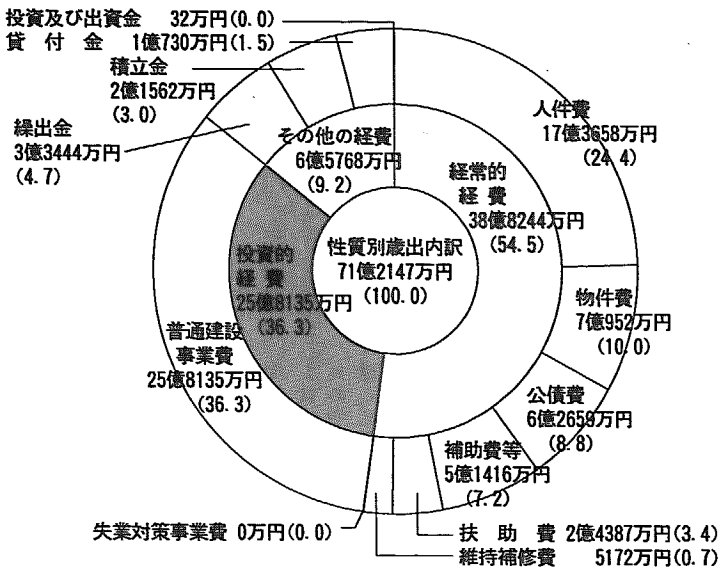
④保健センター、国保健康づくりセンター新築事業の経費総額6億9310万円の内訳

国・県補助金	13.2%
町債	43.3%
その他特定財源	28.9%
一般財源	14.6%

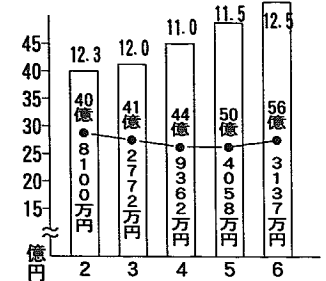
町税は横ばいの状態
黒埼町は不景気の影響を受けながらも、人口増などで町税は横ばい状態にあります。町の仕事は、町税などの一般財源のほか、不足の分は、国県の補助金や町債(町の借金)でまかなわれています。たとえば、保健センター、国保健康づくりセンター新築事業の経費は総額6億9310万円でしたが、そのうち町の一般財源からは1億134万円、あとは国県の補助金9176万円、町債3億円などでまかなわれました。(④を参照)

平成6年度は、ほかにも町道整備事業、ふれあいロード環境整備事業、ふれあい教育センター建設事業など緊急に整備を要する大きな事業をするために、大きな借金をしました。たとえば、ふれあいロード環境整備事業、ほかにも町道整備事業、ふれあいロード環境整備事業、ふれあい教育センター建設事業など緊急に整備を要する大きな事業をするために、大きな借金をしました。たまたま、ふれあい

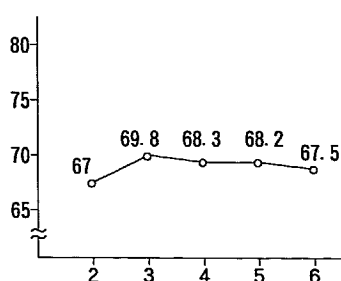
⑤性質別歳出の内訳()は%



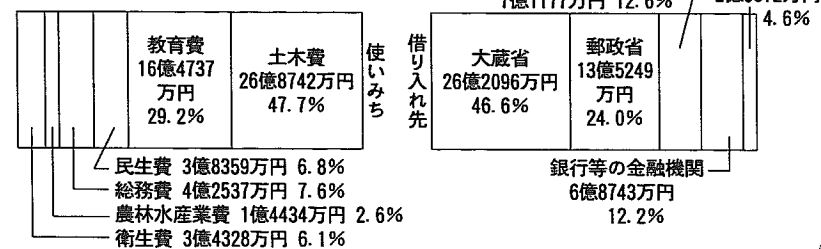
⑦町債残高と公債費比率



⑥経常収支比率



⑧町債56億3137万円(過去に借りた町債残高)



財政力指数は高くなる
自治体の財政力の強さを測るものとして「財政力指数」があります。町税などの自治体の収入で、その自治体の標準的な経費をどこまでまかなえるかを示すものです。この数値が高いほど税収入が、財政力があることになり、市町村は通常1を超えると普通交付税は交付されなくなり、黒埼町は0.651と比べて高くなりました。

長引く不況から脱出したとの見方もありますが、日本の経済は一向に回復しないのが現状です。今後の財政状況は、さらに厳しくなることが予想されます。今後、町は流域下水道、町道認定、町道改良、公園や学校・社会教育施設の整備、老人福祉、身体障害者福祉、といった大きな事業がひかえています。監査意見にもあるように、行財政の執行に当たっては、年次の実施計画に基づき事業の実施と、民間開発については町の基本計画に基づいた適正な行財政の実施が必要です。

監査意見から

当年度歳入状況は収入済額7,337,012千円は、前年度対比で98,305千円減の1.3%の減少となった。この要因は町税の個人町民税が136,891千円の減少で所得税減税にともなう減税分であり、法人町民税及び固定資産税の伸びによって、おきなわれたもの、まだ13,460千円の税収減となったこと、その他国庫支出金は前年度より補助事業量の減少による減少の大きな要因となっている。

歳出状況は、支出済額7,121,465千円は前年度対比で97,289千円減の1.3%の減少となった。

この内訳の主なものは、民生費が特別養護老人ホーム虹の里の建設負担金及び、衛生費の保健センター及び国民健康保険健康づくりセンター建設事業費並びに農林水産費の農村総合整備モデル事業や農業集落道等のモデル町単独事業が増加したものの、土木費において前年度河川敷公園整備事業の完成による減少や総合経済対策で伸びた道路改良事業等の完成による事業量の減少によるものであった。

従って決算の実質収支では202,047千円の黒字を計上できたことは、健全財政の見地から経営努力の結果と評価いたします。

今後とも町道認定、改良、流域下水道、学校、社会教育施設、公園ならびに老人福祉施設や障害福祉等の行政需要に応えるために、予算編成及び行財政の執行に当たっては、年次の実施計画に基づいた事業の実施に努められたい。

経常的経費39億円

歳出を性質別に見たのが、(⑤)です。人件費や借金の返済である公債費など必要不可欠な経費を、経常的経費と